旬の沖釣りをエンジョイ！

今がチャンス！ これから楽しみ！

釣りどきレポート

Best Season Report

4月から新生活を始める皆さま、おめでとうございます。門出の春にちなんで、未体験の釣りにチャレンジしてみませんか。

▲太東沖のアコウは4月も大いに期待できそうだ

◎外房大原港発▶太東沖

これぞ深海釣りのだいご味 アコウ&キンメの多点掛け

本誌APC(東京)／椎名義徳 Yoshinori Shiina

今回の釣行はアコウダイ。周年狙えるターゲットではあるが、産卵期となる3～5月は群れが固まるため、釣果アップが期待できるトップシーズンとなる。

外房大原港の鈴栄丸を訪れたのは3月中旬。早朝というよりまだ深夜の2時半、待合所には私を含め4名の釣り人が集まった。

荷物を船宿の軽トラで船着き場まで運んでいただき、トモ側から私、鈴木さん、木村さん、最上さんと入り、この日は釣り座に余裕があることから若船長の優哉さん、俊太さんも竿を出した。

準備が整い3時前に出船。太東沖の釣り場までは2時間強のクルージングとなる。

最近の釣況は7点掛けや6キロ級交じりでトップ2ケタ台といった好日もあれば、激流のような速潮に惨敗する日もありと日ムラは否めないが、魚はすでに抱卵し群れが固まっている状態とのこと。潮が落ち着いていることを祈りつつ釣り場へ向かう。

速潮で底なし状態

鈴栄丸のアコウ釣りの概要を簡単に説明すると、仕掛けのハリ数は10本までで、一日の投入回数は6回がルール。オモリは500号または2キロの鉄筋を使う。

エサは各自持参。サバ、アナゴ、カツオのハラモなどを持参する人もいるが、エサ持ちのよさや食いのよさ、入手のしやすさなどトータル評価としてはスルメイカの切り身が一番。

釣り座は右舷の片舷並びで、船を前進させながらトモからの投入となる。

投入方法は掛け枠を使うのが確実だが、ハリを船ベリにセットしたマグネット板に並べてオモリを投げ入れる方法でもOKだ。

仕掛けは複雑なオマツリさえなければ繰り返し使えるが、念のため投入回数分の仕掛けを用意しておきたい。

リールはミヤマエの9番やダイワの3000番が標準だが、シマノの9000番やダイワの1200番などワンサイズ小型のものでもOK。

ただし、使用する道糸がPE8～10号と細い分、潮切れがよく底ダチを取りやすいメリットはあるものの、オマツリしたときに高切れしやすく、切れた長さによっては糸が足りなくなってしまう場合があることを理解しておきたい。

5時前に釣り場到着。タックル、仕掛け、オモリをセットし投入の指示を待つ。

ちなみに私が持参したエサはサバ、カツオのハラモ、タチウオの切り身と小ぶりのヤリイカ。

ヤリイカは一番下のハリに1杯掛けで付け、アブラボウズを狙う作戦だ。

「潮が速いですから浅い所からやっていきますよ。椎名さんどうぞ！」のアナウンスで鉄筋オモリを放り込む。

トラブルなく仕掛けを投入し、リールのドラグレバーをフリーにしたところで持っていた掛け枠を持ち上げ、船長に投入の完了を合図する。

全員の仕掛け投入が完了したところで、

「290メートル。深くなっていきます」と船長。

道糸が330メートル出て着底。しかしすぐにオモリが吹き上がってしまい、糸はとめどなく出るばかり。あっという間に750メートルも道糸が出ていき、まさに底なしの状態だ。

1流し目は船中空振り。次の仕掛けをセットし、合間に回収した仕掛けを掛け枠に巻き直して3流し目に備える。

全員にアタリ！

2流し目は375メートルからのカケ上がり。

オモリで底をたたきながらカケ上がり斜面をトレースしていきたいのだが、やはり着底以降は底ダチが取れない状態が続く。

仕方なく道糸を張りながら送り込んでいくと、ガタガタと私の竿にアタリ到来。

「240メートルまで上がってきたよ」とアナウンスされたが、リールのカウンターは700メートル!? どんだけ～と言いたくなるような潮である。

それでも、巻き上げ途中に断続的な魚の抵抗が伝わってくる。上がってきたのはキンメが3枚。型も1キロ弱と申し分ない。お隣の鈴木さんも同サイズを3枚釣り上げた。

3流し目は290メートルからのカケ下がり。先日アコウの7点掛けがあった場所とのことだ。

この流しでは全員にアタリがきたが、胴の間の木村さんと最上さん、ミヨシの優哉さんにきたアタリはひときわ強いようだ。

まずは優哉さんの仕掛けが上がる。キンメ4枚に続き、ラストのハリに掛かっていたのは2キロ級のアコウ。ということは、もしかすると……

「うぉっ！ やった!!」

と声を上げた木村さんが取り込んだアコウは3キロ級。

続いて最上さんには3キロと4キロ級が2点掛けで浮上。

「いやー、よかったよ。いいサイズだ！」

あきらめムードの釣況だっただけにこれには船長も大喜びだ。

トモ側の鈴木さんと私の仕掛けにはキンメが7枚ずつ。型もいいのでこれはこれでうれしいのだが、本日ばかりはキンメといえどもゲスト。なんとしてでも本命アコウを浮かせたいものだ。

その後も290メートルからのカケ下がり、350メートルからのカケ上がり、ラスト6流し目は一か八かで410メートルで投じてみるも残念、アコウからの応答はなく沖揚がりとなった。

当日の釣果は2～4キロのアコウを船中4尾。激流のような潮況に苦戦を強いられた日となってしまったが、翌日は潮も緩みアコウが多点掛けで上がる好日となったようだ。

今後の見通しも潮次第となるものの、魚は確実に固まっているので、潮が緩んだ日に当たれば間違いなく好釣果が望めるだろう。

▼キンメは30～40センチ級の型ぞろい

●しいな　よしのり／私が釣行した翌日は爆釣。最近このパターンが多いんだよなぁ……。

知得！ Tips and Tricks 鈴栄丸が併営する食事処「船頭の台所」

鈴栄丸の船宿の2階が「船頭の台所」。メニューは当地のイセエビ、サザエ、マダコ、サワラなどのほか、漁も行う船長たちが釣ってきた魚が並ぶ。帰港後に昼食を食べて帰るのもよし、家族で外房に出かけて立ち寄るもよし、斎藤俊一郎船長自ら包丁を振るう漁師料理を堪能していただきたい。

▲営業時間は11～14時

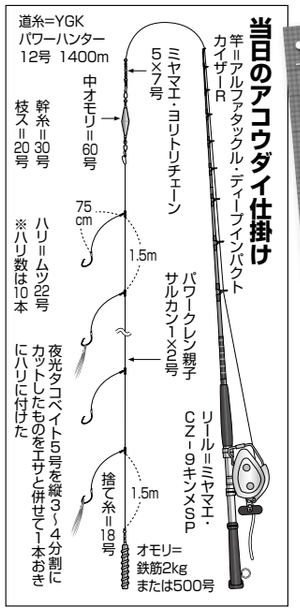
◉船宿information

外房大原港
鈴栄丸
☎0470・62・0351
（詳細は巻末の情報欄参照）

斎藤 俊一郎船長

▶料金＝アコウ乗合の料金は電話確認（氷付き）
▶備考＝予約乗合、出船時間は電話確認。ほかヤリイカへも出船

•Tackle Guide

夜光タコベイトなどの光り物は有効なアイテムだが、カラスザメなどの外道を寄せてしまい、先にエサを取られてしまうこともあるので、それらが掛かるようなら外したほうがいい。

当日のアコウダイ仕掛け